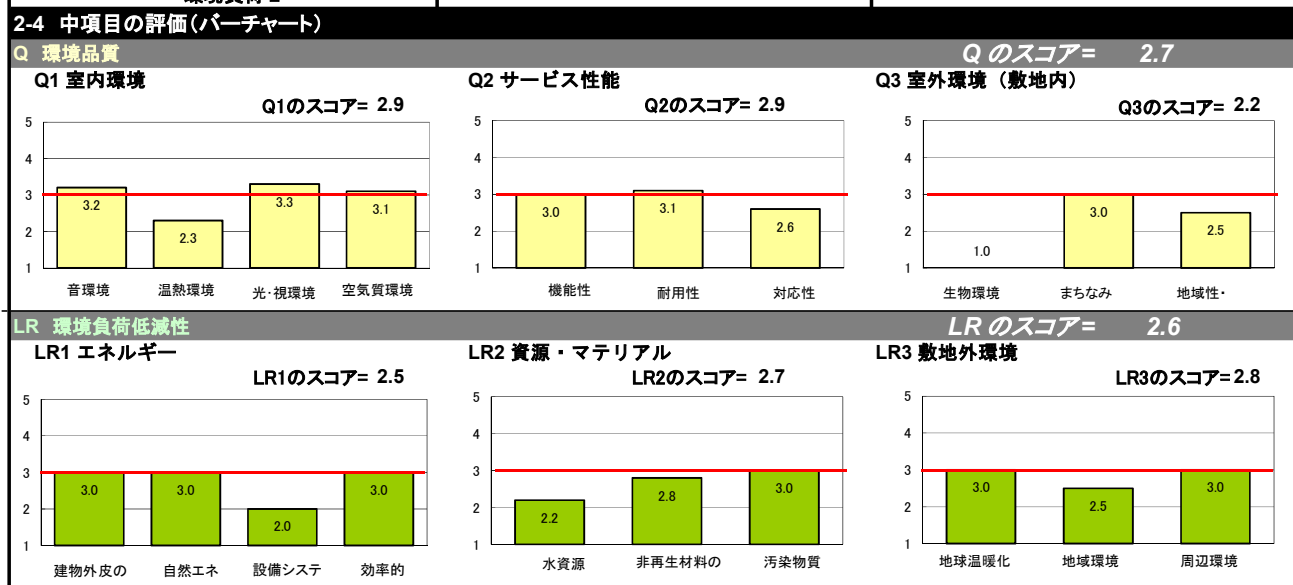


CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2014年改訂) ■ 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンス豊年町(1403)	階数		
建設地	名古屋市千種区豊年町1403番、1404番	構造		
用途地域	商業地域、第2種住居地域、準防火地域、緑化地域、都市機能誘導地域、居住誘導区域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日		
敷地面積	469 m ²	作成者		
建築面積	197 m ²	確認日	2022年12月27日	
延床面積	2,471 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合 法規制と建築主が求める諸条件をクリアすることを前提として計画をすすめた。 今回の計画コンセプトに沿って、専用部分の快適性に配慮を行った。 特に建物内外の補修や更新の手間を抑えることができるよう部材の選定を行った。 また、LR項目にも可能な限りの配慮を行った。		その他 特になし
Q1 室内環境 光が十分に室内に入る設計としながら、庇とカーテンで過度な日射を抑制することにより光環境の快適性に努めた。 開口部遮音性能にも配慮した。	Q2 サービス性能 衛生的環境の確保に努め、維持管理のしやすさに配慮。 外壁仕上材にはメンテナンス期間の長い材料を採用した。	Q3 室外環境 (敷地内) 車路をピロティ部に設けることにより敷地内の暑熱環境緩和に配慮した。
LR1 エネルギー 外皮の熱負荷抑制について可能な限り配慮を行った。	LR2 資源・マテリアル 特になし	LR3 敷地外環境 特になし

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンス豊年町(1403)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.5
LR1	エネルギー	2.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.5



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。